

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ) ひまわり
所在地	伊予市双海町大久保字石ノ久保甲974番地8
自己評価作成日	H24年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が当たり前にしてきた掃除・洗濯・入浴・更衣・調理・読書など、生活の中で長年してきた行為を忘れてしまわない内に、できないところだけそっと手伝い、時間をかけて考えて頂く。そして、ひたすら見守り待つ姿勢で、ご本人の力を引き出す支援をしている。その為には出来ること出来ないことを知り、体調をアセスメントし、足りないことを見つけ出すことである。その上で、無理のないリハビリを日々工夫して行うことであるが、実際にはなかなか難しいことである。そのような中で、寝たきりだった方が、自力で食事ができるようになり、伝い歩きができるようになった時の顔は忘れられない。開設後、1年を迎えようとしている今、あきらめず、あせらず、利用者の力を信じ、共に生きることが職員の働く支えにもなっていると信じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的で心和日々を」という事業所の理念のもと、利用者が住みなれた地域で暮らし続けることができるよう開設された事業所である。管理者と職員は入居前、利用者宅を訪問し利用者の生活ぶりを把握し、入居後も変わらない生活が送れるよう支援している。ケア理念である「自分でできる喜びと達成感のある暮らし」を第一にし、職員全員で利用者の暮らしを支えている。近隣在住の職員を多く採用し、地域活動へ積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ)
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	松本優子
評価完了日	平成24年 2月 23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 独自の運営理念を作り、職員が理解し意識して地域に密着した暖かいホームを目指している。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念をもとに具体的なケア理念をつくり、代表者や管理者、職員全員が一丸となって利用者の地域での生活を支援している。利用者が入居前の暮らしを継続できるよう利用者本位の介護を実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 利用者がホーム生活に馴染み始めた7月頃から、地域行事の参加、近隣施設の訪問等、少しずつ交流の機会を増やしていった。各種団体の見学者受け入れや、ホーム内行事に地域の方を招待することでホームを知って頂く機会とした。秋には地域ボランティアの方が慰問に来られ、顔なじみの人に会えて抱き合っって懐かしむ場面もあった。利用者は、こうした交流を楽しみにされているようである。</p> <p>(外部評価) 職員が地域の消防団に入ったり、地域の草引きや道路整備に積極的に参加し、地域の文化祭に作品を出品するなど地域交流の機会を増やし、事業所が地域の一人として受け入れられ理解が得られるよう取り組んでいる。また、12月に開催した餅つき大会で利用者は、地域住民や家族、運営推進会議の関係者等多くの方々と交流した。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 代表者はホーム運営の経験者でもあり、社会福祉協議会のお声掛けにより、地域事務所において、地区相談員の皆様に実践を通して積み上げた認知症の支援について講演させて頂いた。後日、見学に来られた際には、五感を通して当ホームのあり方を体感して頂いたのではないかと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議の場を生かし楽しみながら認知症の理解(資料学習・認知症の観劇)をして頂いた。医師等の講演では、堅苦しい内容に終始することなく、栄養強化食品の試食等も組み込み体力維持の実際を体験してもらった。家族もいつか行く道として理解を深めてもらい発言もある。家族からの要望・提案はできる限り具現化している。入所したらお任せではなく、共に認知症に向き合う方向付けができつつあると認識している。参加者も多い為、職員一丸となって行っているが、周知のため会議録は回覧している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>電話やはがきで参加を呼びかけ2か月毎に開催し、欠席した関係者にも議事録を送付している。家族や地域の関係者が出席しやすいよう日時や内容を工夫している。地域の医師や薬剤師等を講師に招き、毎回勉強会を行っている。参加者には週間予定表や年間行事計画書等配布し、サービス内容を明確にし意見交換している。会議には職員も参加し全員で取り組んでいる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>介護相談員派遣はないが、運営推進会議で当ホームの実情やサービスの取り組み状況を伝えている。市の担当課とは必要時、連絡・相談・報告を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>開設準備の段階から市担当者と度々連絡をとり、相談し助言を得ている。地域包括支援センターからは入居の相談があり、事業所から入居後の利用者の状況報告も行い協力関係を築いている。また、災害危険地域になっているため、避難時の連絡等緊密に連携し取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>勉強会やマニュアルに沿って個人個人が理解し、介護に取り組んでいる。 日中玄関は鍵をかけず自由に散歩が出来るようにしている。 利用者さんの安全を第一に考え、拘束が必要と判断した場合はご家族の同意を頂いた上で実施も検討しなければいけません、現在ユニットには対象者はいません。</p> <p>(外部評価)</p> <p>マニュアルを作成し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。出入口は施錠を行わず職員が協力して見守り、対応している。利用者の離棟については地域住民の理解を得られるよう運営推進会議を通じて説明し、協力をお願いしている。介護経験の少ない職員もあり、身体拘束をしないケアについて勉強会等行っている。</p>	安全確保のための拘束についてもカンファレンスを繰り返し行い、事業所の工夫や方針について家族に説明し、抑圧感のない自由な暮らしが支援できるよう今後の取り組みに期待したい。また、全職員の意識統一が図られる取り組みも望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングを利用したり、機会毎に、どのような行為が虐待となるか話し合うように努めている。入浴時には、看護師が身体状況を観察している。皮膚病などの発見の他、良心的な介護や報告が行われているか確認の機会にしている。言葉遣いに注意したケアに努めている。虐待の事実は発見しだい注意及び告発します。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員には研修案内を行い知識の向上を図るようにしている。入居者の中で必要性がある方については、関係者と話し合いの経過中である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、利用者や家族の困りごと、不安に思うこと、要望等を聴き、納得が得られるよう丁寧に説明している。病状悪化による解約の際には、医療関係者と共に、最善な療養先について説明し納得が得られている。また契約書の解約に当たる条項の確認もして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情に関する説明を行い、当ホームの受付窓口や行政機関の苦情受付案内を行うようにしている。苦情は数件あったが、解決責任者を中心に話し合い解決に至っている。内容により市の担当課、第3者委員にも報告している。	
			(外部評価) 運営推進会議は約8割の家族の出席を得ている。家族が必要としている情報を議題にし、講師を招き勉強会を行ったり、利用者と一緒にゲーム等を体験してもらい、認知症利用者の理解を深め協力関係が築けるよう取り組んでいる。家族会は設置していないが、会議を通じて家族間の交流も生まれている。今後も多くの家族が関わられるような取り組みを検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 主にミーティング等で職員の意見を聞く機会を設けている。 全体場で言い難いこともあると配慮し、代表者及び管理者 が個々の意見も聞くよう心がけている。内容により運営に反 映させている。 (外部評価) 地域在住の職員も多く、職員からの提案で地域行事等へ参加 する事も多い。意見箱を活用して出された意見は代表者も出 席する毎月の職員会議で話し合われ、運営に反映されてい る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 勤務時間や休日などについては、できる限り職員の要望を取 り入れている。処遇改善交付金により賃金改善に努めてい る。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 積極的に研修への参加を呼びかけ、現在2名が資格取得に向 けて研修中である。研修参加を優先としたシフトにより、参 加しやすい環境を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会に加入している。ネットワークを利用して 新設ホームとして紹介の機会を頂いたり、研修案内の送付 がある。系列ホームとの合同での交流を数回実施している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 問い合わせにより、可能なら家族とご本人にホーム見学をお 願ひし、雰囲気や暮らし方を見聞して貰っている。好みの話 題から始め、ご本人の語られる事や仕草に共感したり、トイ レ等の案内時にADLや理解力などを把握している。職員の目か らの情報収集も兼ね、おやつやレクに参加して頂き関係作り に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホーム生活が妥当であり、入居希望という事になれば、ケアに反映する為にと説明した上で、生活暦からホームを利用せざるを得なくなった現在までの状況(趣味・嗜好・トラブルエピソードや困りごと・不安・体調等々)を親身になって聴いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 医療関係者及び担当ケアマネージャーを始めとした関係事業者からも情報を得た上で、家族等を交えた担当者会議を開催している。その場において、他のサービス利用を含めた支援内容を見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 上げ膳据え膳の生活ではなく、出来る事はやっていただき、出来ない事は職員と一緒にやる。利用者が主体で職員が脇役で支えあえる関係が違和感なくできつつある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 専門家である私達も家族の絆には勝てない。周期的に不穏が酷くなるB氏、長く対応してこられたお嫁さんに相談すると、すぐに来訪され1・2時間外出して戻られた時には、いつもの穏やかさに。時には家族の手も借りて、共に支えていく関係が大切だと認識している。時にはご家族の協力が必要です。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 現役時代の同僚や幼友達、親類が訪ねて来られる。快くお迎えしゆっくり歓談できるようにしている。希望で外出や外食、外泊もされている。キーパーソンが遠方の場合でも、様子を伝える事で、地域に住む親類の方が訪ねて来られたり、工夫をして、これまでの絆が途切れないように配慮している。 (外部評価) 入居前の利用者宅を訪問し、生活全般についてできるだけ情報収集し、馴染みの人や場所を把握している。家族や馴染みの人には、事業所の行事を案内して利用者との関わりが継続できるよう支援している。また、家族等との外出や外泊も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のやりとりは日常的にあり、大きな家族に見える事もある。しかし、認知症の為に相手への配慮ができず関係が上手くいかなくなる場合もある。改善できない場合は、座席や居室、居住ユニットを変えて対応することもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も事後処理の相談など、家族の立場に立ちながら対話している。退去して日がすぎても「今もホームにいるようだ。」との電話もあり、お気持ちを分かち合いながらお話を伺うようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話に耳を傾けたり、家族から個々の思いや暮らし方は概ね把握。ただ認知症のため過去の事が今ある事のように認識され不穏に陥られる場合もある。こだわっている事からスイッチの切り替えができるように、タイミングを見て気分転換をしたり、様にはいかない場合も多々ある。失敗も職員で共有して次に繋げている。 (外部評価) 入居前に続けてきた利用者個々の暮らしが入居後も継続できるよう「ゆったりした自由な暮らしを支援する」というケア理念を全職員で実践している。利用者の様子を観察し見守る事で職員の気付きや工夫が生まれ、利用者自らができる事を発見する事もあり、職員のやりがいにつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 上記15～17で得た情報を、日々のケアの中で確認し変化している事、暮らし方は今の方法で良いのか等、追加修正しながら、利用者に必要なケアを担当者会議の場などで意見交換している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できる事、できなくなった事、こう働きかけたら上手くいった等、職員間での情報交換はよくされている。定期的に各職員に全体の利用者に対する気づきを記入して貰っているが、関心を持って利用者を見ていることが分かり、ケアプランにも反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 上記25の他に、担当者会議・ミーティングの場を活用しての意見交換、日頃の職員や家族の言葉を大切にケアプランに取り入れている。</p> <p>(外部評価) 入居前に管理者やケアマネ、職員は利用者宅を訪問し、センター方式の書式を活用して利用者の課題の把握に努めケア方針を決めている。職員は利用者とのかかわりの中で気づいたことを事前に文書で提出し、3か月毎に家族の参加も得て、担当者会議を行い介護計画を作成している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 計画に沿った記録という視点では、まだまだであるが、個別の介護記録や申し送りノートを利用して情報の共有をしている。記録については、個々により差がある為、口頭での引継ぎも併用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 開設後経過を経てない為、デイサービスやショートステイはできない。「男性と女性では暮らしの担い方や得意分野も異なる為、利用者の意思を尊重し、個人の好みの把握やしたい事ができるように、職員間で役割分担し対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 職員同行で美しい夕日の落ちる浜辺の散策、山菜取り、近くの店で新鮮な野菜や魚の買い物等、この地域ならではの楽しみを暮らしの中に取り入れている。また、馴染みの地域の方が「家で採れた野菜や果実ですらい。格好は悪いが美味しいけん。」と差し入れをして下さる。声をかけると、張り切って調理の下ごしらえにかかる方もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 内科は月に2回、歯科は緊急時と往診があり健康管理をして いる。他科については定期的な受診は家族が対応。希望によ り随時、受診したい病院に行かれている。その際は、協力医 の紹介状や介護・看護経過をお渡しして適切な医療が受けれ るよう支援している。</p> <p>(外部評価) 開設前、地域の医療機関にパンフレット等持参し説明を行い 理解を得るよう努めた。利用者全員、家族の同意のもと協力 医をかかりつけ医とし、適切に健康管理を行っている。他の 医療機関の受診は家族にお願いしているが、緊急時は事業所 が対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師は24時間オンコール体制としており、緊急時のフロー チャートも用意している。介護職員は利用者に変化があれば、 その都度看護師に連絡・相談している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院から退院まで、面会や医師面談の機会を利用し、家族の 了解の元で医療関係者を通して情報交換し、再度の受け入れ 可能か、適切な療養先を探した方が良いか等、連絡・相談を している。開設前から病院訪問を行い、要になるMSWとは関係 作りを行ってきた。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時に説明する他に、入院中に重度化し終末期に至った事 例については、家族と相談し面談に立会う他、状態の確認を 行い医療関係者も交えて今後の方向性を相談した。看とり体 制は整えているが、事例はない。</p> <p>(外部評価) 「穏やかに安らぎのある暮らし」というケア理念のもと、安 心して最期の時を迎えられるよう、希望があれば看取りケア を行う方針である。24時間体制で協力医療機関と連携を取り、 医師や看護師、介護職、家族等が協力して支援に取り組 めるよう、マニュアル等の準備をしている。</p>	<p>看取りケアを行うにあたって、利用者や家族が納得した最期 を迎えられるよう、家族や医療関係者、事業所の職員が対応 方針を共有する事が望まれる。また、職員は看取りケアの勉 強会や緊急時対応の研修等、意欲を持って取り組むことを期 待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、発生時はフローシートにしたものをリビングに掲示し、いつでも復習・対応ができるようにしている。しかし、応急的な対応は、個々の状態に応じて異なり、一度機会を設けて消防署の指導を受けたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ホーム職員の一人が地元消防団員として加入、計画の元、地域の防災訓練などに参加している。消防署の協力の元、昨年6月と12月に避難訓練を行い、6月は利用者は集会所に避難。職員は実際に消化栓を使用したり、通報練習、消化器での消化訓練などを体験した。各自レポート提出しふりかえりを行っている。当地域は土砂災害警戒指定区域であり、9月の大型台風では自主避難した経験もあり、教訓を元にマニュアルを作成し、職員一人ひとりに事故発生時の動きについて、防火管理者が教育中である。 (外部評価) 夜間と昼間の火災想定で避難訓練を行っている。実際に利用者も参加し集会所まで避難する等実際に即して訓練している。土砂災害警戒指定区域内であり、台風の時には自主避難した経験もあり、課題の把握もできている。土砂災害に対して意識も高く、関係機関との連携も行っている。	職員の災害時における役割分担、地域や関係機関への緊急時連絡網の整備等、自主避難した昨年の経験を活かして具体的にマニュアルを見直し、自主訓練の実施等を望みたい。施設内の環境整備、備蓄の準備等についても検討を重ね、非常時でも利用者の生活を守るための取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけや介助時には、指示を極力減らし、言葉使いや声の大きさ、話の内容等、その時の状況に応じて対応している。また人の視線に触れないように排泄・更衣・入浴などの介助時は注意してケアしている。他の利用者さんの目に触れない居室を有効に利用している。 (外部評価) ケア理念である「自分でできる喜び、達成感のある暮らし」「自分らしく誇りを保つ暮らし」を実践するため代表者や管理者、職員全員で取り組んでいる。利用者に対する言葉遣いや声の大きさ等配慮しており、職員間でも注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表現力が十分でない利用者の場合、筆談、表情、行動、周りの状況、最近おこった出来事から推察し、理解するように努めている。また、言葉ははっきりしていても、つじつまの合わない話をしていたり、思い込みや勘違いで興奮している場合もあるので、場や人を変えたりして、本意を把握するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は仕事ではなく、共に寄り添って暮らすと捉えて関わっている。例えば利用者がホーキと塵取りを持ったら、「今から掃除？」と声をかけ、したい場所をただいだけして頂く。きれいにするのが目的ではなく、利用者がこれで良いと思ったら由としている。日課はあるが、大方の利用者は個々にしたいことをされている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 無関心な方もあるが、女性の中にはお化粧を促すと生き生きとされる方もある。男性も外出時は洋服や帽子を選ぶことを共に楽しむようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 夏場には、裏庭で作った夏野菜の収穫を楽しまれた。近くの店に買い物に出かけて選ぶのも楽しみにされている。山坂も元気に歩き近くの店に買い物に行かれる。利用者が選べるようにテーブルに野菜やまな板、クラフト作業等を置いておくと、声をかけあつて「あんた皮を剥ぐ？そんなら私は切るか。わしはそんなことはせんぞ。そうかな、外でボール遊びの椅子並べでもしよつたら？」と賑やかな会話が耳に届く。こっそり口に入れたりされるが、自分達で切ったり剥いたりしたものである。「これは大根かや、全部剥いでもとるが、しょうがないわい。」と納得されている。 (外部評価) できることは利用者が行えるよう、職員は見守りしながら支援を行っている。季節の野菜を中心に食べやすいメニューになっており、かかりつけ医から栄養バランスについてのアドバイスももらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分の摂取量を常にチェックしている。栄養状態については、個人の吸収力や摂取量のこともあり、医師が定期検査で確認し個々に応じた栄養食が処方されている。水分については、お茶を嫌がる方が数人あり、飲み物を変えたり、汁の量を増やしたり粥食にする等、工夫している。脱水傾向がある場合は、飲める間は医療用保水液の飲用を勧めたり、指示で点滴を行うこともある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、できる方は自分で歯磨きしている。入れ歯の方は就寝前に必ず外し洗浄している。必要時、歯科医師に診察依頼し、義歯の作成や調整を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) いつも排泄用品に頼るのではなく、パターンをつかんで、トイレの促しを行っている。腹筋に力がないため残尿があり頻尿や失禁につながる為、様々な運動を一日数回取り入れている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の状態に応じてトイレ誘導を行ったり、夜間はポータブルトイレを使用する等、できるだけおむつに頼らない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘も同様で運動の他、排便回数や表情をみていてトイレを促すようにしている。トイレでは腹部のマッサージや力みの声かけを行う。食事に工夫を加え、できるだけ下剤や洗腸に頼らない工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は決まっているが、気分が乗らない方は時間や職員を変えて声かけしている。 翌日に入ってもらうこともあり、無理強いはしていない。どの方も湯につかれば、のんびり入浴を楽しまれている。時には清潔に保つための入浴の必要性を説明する場合がある。	
			(外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回と入浴回数や時間を決めていますが、利用者の状態や要望に合わせて支援している。拒否の強い利用者にも声かけを工夫する等して気持ちよく入浴できるよう援助している。浴室にはエアコンの設備がないため、脱衣室や浴室の温度管理に気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人のリズムを尊重するようにしている。 車椅子使用の入居者さんは褥瘡予防に努める。体調管理に心がけ調子が悪い様子であれば部屋で休憩して貰う。 不眠が続くようであれば看護師と相談する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 名前の確認と服用したかどうかの確認しています。介護職員はいつでも、服用中の薬の内容が確認できるようにしている。体調変化に疑問があれば看護師に確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居前に興味や役割など、楽しみにされていた内容を伺っており、可能な限り取り入れるようにしている。レクリエーション・行事計画を企画し外出などで気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望者は天気の良い日に近所に散歩に出かけたり、運動好きな方は敷地内でボール遊び、花が何よりという方は手入れを楽しまれたりしている。毎月2回はドライブ計画などホーム活動の機会を作っている。 (外部評価) 年間の行事計画を作成し、毎月ドライブ等で外出している。敷地内は自由に行き来することができ、屋外での活動も日常的に行っている。季節には利用者と山菜採りに行ったり、畑の手入れをしたり入居前と変わらない元気な暮らしを送ることができるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金がないと不穏になる方は、紛失しても支障がないと家族が判断した小銭を持っておられる。近くの自動販売機にジュースを買いに行かれるのに付きそう例はある。身寄りのない方等は、事務所で管理し必要時一緒に衣類などの買い物に行くようにしている。近隣の店に買い物の同伴はしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 意思疎通のでき難い利用者には家族に手紙を書いて貰うようにしている。本人に渡し、希望があれば返事を書けるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 夏には使用済みの紙風呂敷やプラ容器を短冊にして七夕飾りを願いをこめて作り、秋には卵・牛乳パックなど廃物を一緒に集めて神輿を作り、近隣施設に展示させてもらった。クリスマス飾りや門松も同様で、生活の中で出てくる廃物を利用して作成し季節を感じてもらっている。洗濯もの干しに出たり、庭でボール遊びに興じたりすることで、寒さ暑さなど四季を感じてもらおう。浴室は暖かく、くつろぐ場では音、光、広さ、湿度、温度など、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
			<p>(外部評価)</p> 自然環境に恵まれ、四季を感じながら生活する事ができている。リビングから見える伊予灘の景色は利用者がふるさとを感じ安心して過ごせる場所となっている。運営推進会議でも夏場の暑さや冬場の寒さ対策について話し合わせ、対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> リビングから少し離れた場所に、ところどころにソファが置いてあり、共有空間の中でも一人になれる。そこは気のあった人と会話できる場所にもなっている。畳敷きの和室を用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 備え付けの3モーターのベッド・サイドテーブル・テレビがあり、体調の悪い時も安楽に休めるように設備している。仏壇を置き故人を偲んだり、馴染みの使い慣れた家具の物の持ち込みや、好きな花を育てたり、思い出の品(家族写真など)でその人が落ち着いて生活できるようにしている。	
			<p>(外部評価)</p> 居室管理の担当者を決めており、利用者は各担当者と相談しながら、室内の整理整頓や季節の衣類交換等行っている。掃除機を使用することができない利用者も、職員と一緒にほうきと塵取りで自ら床を掃く等できることをしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> 利用者のADL、身体的な病状、行動障害の状況にあわせて、居住ユニットを分け、落ち着いて安全に暮らせるよう居室の位置やリビングの席を決めている。バリアフリー・手すりを設けて安全を図っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000063
法人名	有限会社オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか(ふたみ) なのはな
所在地	伊予市双海町大久保字石ノ久保甲974番地8
自己評価作成日	H24年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が当たり前にしてきた掃除・洗濯・入浴・更衣・調理・読書など、生活の中で長年してきた行為を忘れてしまわない内に、できないところだけそっと手伝い、時間をかけて考えて頂く。そして、ひたすら見守り待つ姿勢で、ご本人の力を引き出す支援をしている。その為には出来ること出来ないことを知り、体調をアセスメントし、足りないことを見つけ出すことである。その上で、無理のないリハビリを日々工夫して行うことであるが、実際にはなかなか難しいことである。そのような中で、寝たきりだった方が、自力で食事ができるようになり、伝い歩きができるようになった時の顔は忘れられない。開設後、1年を迎えようとしている今、あきらめず、あせらず、利用者の力を信じ、共に生きることが職員の働く支えにもなっていると信じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭的で心和日々を」という事業所の理念のもと、利用者が住みなれた地域で暮らし続けることができるよう開設された事業所である。管理者と職員は入居前、利用者宅を訪問し利用者の生活ぶりを把握し、入居後も変わらない生活が送れるよう支援している。ケア理念である「自分でできる喜びと達成感のある暮らし」を第一にし、職員全員で利用者の暮らしを支えている。近隣在住の職員を多く採用し、地域活動へ積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか(ふたみ)

(ユニット名) なのはな

記入者(管理者)
氏名 松本優子

評価完了日 平成24年 2月 23日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 独自の運営理念を作り、職員が理解し意識して地域に密着した暖かいホームを目指しています。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念をもとに具体的なケア理念をつくり、代表者や管理者、職員全員が一丸となって利用者の地域での生活を支援している。利用者が入居前の暮らしを継続できるよう利用者本位の介護を実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 利用者がホーム生活に馴染み始めた7月頃から、地域行事の参加、近隣施設の訪問等、少しずつ交流の機会を増やしています。各種団体の見学者受け入れや、ホーム内行事に地域の方を招待することでホームを知って頂く機会としています。秋には地域ボランティアの方が慰問に来られ、顔なじみの人に会えて抱き合っ懐かしむ場面もありました。利用者は、こうした交流を楽しみにされているようです。</p> <p>(外部評価) 職員が地域の消防団に入ったり、地域の草引きや道路整備に積極的に参加し、地域の文化祭に作品を出品するなど地域交流の機会を増やし、事業所が地域の一人として受け入れられ理解が得られるよう取り組んでいる。また、12月に開催した餅つき大会で利用者は、地域住民や家族、運営推進会議の関係者等多くの方々と交流した。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 代表者はホーム運営の経験者でもあり、社会福祉協議会のお声掛けにより、地域事務所において、地区相談員の皆様に実践を通して積み上げた認知症の支援について講演させて頂きました。後日、見学に来られた際には、五感を通して当ホームのあり方を体感して頂いたのではないかと思います。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場を生かし楽しみながら認知症の理解(資料学習・認知症の観劇)をして頂きました。医師等の講演では、堅苦しい内容に終始することなく、栄養強化食品の試食等も組み込み体力維持の実際を体験してもらいました。家族もいつか行く道として理解を深めてもらい発言もありました。 家族様へのサービスの実際を報告、理解を得、又意見を聞き、活動に活かしています。職員へは定期的なミーティングを開き意見交換の場を設けています。</p> <p>(外部評価) 電話やはがきで参加を呼びかけ2か月毎に開催し、欠席した関係者にも議事録を送付している。家族や地域の関係者が出席しやすいよう日時や内容を工夫している。地域の医師や薬剤師等を講師に招き、毎回勉強会を行っている。参加者には週間予定表や年間行事計画書等配布し、サービス内容を明確にし意見交換している。会議には職員も参加し全員で取り組んでいる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護相談員派遣はないが、運営推進会議で当ホームの実情やサービスの取り組み状況を伝えています。市の担当課とは必要時、連絡・相談・報告を行っています。</p> <p>(外部評価) 開設準備の段階から市担当者と度々連絡をとり、相談し助言を得ている。地域包括支援センターからは入居の相談があり、事業所から入居後の利用者の状況報告も行い協力関係を築いている。また、災害危険地域になっているため、避難時の連絡等緊密に連携し取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) ホームとしては身体拘束はしない方針で取り組んでおり、鍵も夜間以外はかけていません。しかし、A氏は、夜間の不穏行動が酷く転倒骨折に繋がる状況がある為、夜間のみ4点柵施行しています。職員はミーティングや勉強会・申し送りノートで情報を共有し正しいケアができるように指導しています。家族・職員・医師と状態をアセスメントしプランに反映させています。拘束施行については家族同意の元で慎重に実施中です。</p> <p>(外部評価) マニュアルを作成し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。出入り口は施錠を行わず職員が協力して見守り、対応している。利用者の離棟については地域住民の理解を得られるよう運営推進会議を通じて説明し、協力をお願いしている。介護経験の少ない職員もあり、身体拘束をしないケアについて勉強会等行っている。</p>	安全確保のための拘束についてもカンファレンスを繰り返し行い、事業所の工夫や方針について家族に説明し、抑圧感のない自由な暮らしが支援できるよう今後の取り組みに期待したい。また、全職員の意識統一が図られる取り組みも望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会の参加、看護師を含めたスタッフ同士での注意・観察を行い日々の介護に努めています。 利用者さんの意思を尊重したり、言動については注意を払って接しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員には研修案内を行い知識の向上を図るようにしています。入居者の中で必要性がある方については、関係者と話し合いの経過中です。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、利用者や家族の困りごと、不安に思うこと、要望等を聴き、納得が得られるよう丁寧に説明しています。病状悪化による解約の際には、医療関係者と共に、最善な療養先について説明し納得が得られています。また契約書の解約に当たる条項の確認もして頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に苦情に関する説明を行い、当ホームの受付窓口や行政機関の苦情受付案内を行うようにしています。苦情は数件あったが、解決責任者を中心に話し合い解決に至っています。内容により市の担当課、第三者委員にも報告しています。	
			(外部評価) 運営推進会議は約8割の家族の出席を得ている。家族が必要としている情報を議題にし、講師を招き勉強会を行ったり、利用者と一緒にゲーム等を体験してもらい、認知症利用者の理解を深め協力関係が築けるよう取り組んでいる。家族会は設置していないが、会議を通じて家族間の交流も生まれている。今後も多くの家族が関わられるような取り組みを検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングを定期的に関き意見交換をしています。代表者及び管理者が個々の意見も聞くよう心がけています。内容により運営に反映させています。</p> <p>(外部評価) 地域在住の職員も多く、職員からの提案で地域行事等へ参加する事も多い。意見箱を活用して出された意見は代表者も出席する毎月の職員会議で話し合われ、運営に反映されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務時間や休日などについては、できる限り職員の要望を取り入れています。処遇改善交付金により賃金改善に努めています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 積極的に研修への参加を呼びかけ、現在2名が資格取得に向けて研修中です。研修参加を優先としたシフトにより、参加しやすい環境を作っています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協会に加入しています。ネットワークを利用して新設ホームとして紹介の機会を頂いたり、研修案内の送付があります。系列ホームとの合同での交流を数回実施しています。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者さんの声には耳を傾ける姿勢で、何でも話して頂けるよう日々信頼関係を持つように努めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族に介護現場（介護職員など）の意見が開ける担当者会議などに参加して頂き意見交換して信頼を得られるようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 医療関係者及び担当ケアマネージャーを始めとした関係事業者からも情報を得た上で、家族等を交えた担当者会議を開催しています。その場において、他のサービス利用も含めた支援内容を見極めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「日々笑顔で接する」「上げ膳据え膳の生活ではなく、今まで暮らしてきた家庭の延長である為、出来る事は皆でやっていく」をモットーに、毎日理念に添い関係を築いています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあった時はご家族さんに協力を求める（電話連絡や面会など）などして、お互いの気持ちを理解対応しています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会は拒否せずご本人と一緒に十分な時間を過ごして頂けるようにしています。又、イベントへの招待を行い関係が維持できるよう努力しています。 ご本人の部屋などに飾ってある記念品・写真などは大切に扱っています。 (外部評価) 入居前の利用者宅を訪問し、生活全般についてできるだけ情報収集し、馴染みの人や場所を把握している。家族や馴染みの人には、事業所の行事を案内して利用者との関わりが継続できるよう支援している。また、家族等との外出や外泊も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いが有意義な生活を送って頂けるよう、場の提供をしています。 日々の生活の中で色んな方とお話や作業をして頂いています。どうしても気の合わない方は席替えや部屋替えで対応しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も事後処理の相談など、家族の立場に立ちながら対話しています。退去して日がすぎても「今もホームにいるようだ」との電話もあり、お気持ちを分かち合いながらお話を伺うようにしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人1人に耳を傾ける努力をしています。 希望や意向を否定する場合は頭ごなしに拒否するのではなく、個々の興味ごとを把握しておき、気持ちの切り替えができるように対応しています。 (外部評価) 入居前に続けてきた利用者個々の暮らしが入居後も継続できるよう「ゆったりした自由な暮らしを支援する」というケア理念を全職員で実践している。利用者の様子を観察し見守る事で職員の気付きや工夫が生まれ、利用者自らができる事を発見する事もあり、職員のやりがいにつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 昔の仕事や趣味などをフェースシートや家族からの情報を得る事で把握に努めています。又、ADLの情報を職員同士が共有し向上できるように意見交換を行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常のバイタルも含め、全身状態・精神状態の観察を行っています。 又、うつの方などは部屋にこもりがちなので皆で過ごせるよう声掛けしたり、外へ散歩に出かけたりしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当者会議やミーティングを参考に計画作成をしています。</p> <p>(外部評価) 入居前に管理者やケアマネ、職員は利用者宅を訪問し、センター方式の書式を活用して利用者の課題の把握に努めケア方針を決めている。職員は利用者とのかかわりの中で気づいたことを事前に文書で提出し、3か月毎に家族の参加も得て、担当者会議を行い介護計画を作成している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ミーティング、担当者会議を参考とし活かしているが、より詳しい利用者さんの記録や気づきなどの記入が欲しいと思います。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 開設後経過を経てない為、デイサービスやショートステイはできていません。「男性と女性では暮らしの担い方や得意分野も異なる為、利用者の意思を尊重し、個人の好みの把握やしたい事ができるように、職員間で役割分担し対応しています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域で行われる催し物など、アンテナを高くして情報をとりホーム外での楽しみ場を用意し、参加して頂くことで豊かな暮らしに繋がるよう努力しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>託職医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう努力して います。 2週間に1回の内科往診、必要に応じて歯科往診。ご本人希 望の病院を受けられるよう関係を築いておりますし、出来る 限りご家族さん同伴をお願いしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>開設前、地域の医療機関にパンフレット等持参し説明を行い 理解を得るよう努めた。利用者全員、家族の同意のもと協力 医をかかりつけ医とし、適切に健康管理を行っている。他の 医療機関の受診は家族をお願いしているが、緊急時は事業所 が対応している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>看護師は24時間オンコール体制としており、利用者さんの 状態は常時観察し、変化に気づいた時はすぐ報告し看護師よ り指示を受け実施しています。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院から退院まで、面会や医師面談の機会を利用し、家族の 了解の元で医療関係者を通して情報交換し、再度の受け入れ 可能か、適切な療養先を探した方が良いか等、連絡・相談を しています。開設前から病院訪問を行い、要になるMSWとは関 係作りを行ってきました。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>契約時に説明する他に、入院中に重度化し終末期に至った事 例については、家族と相談し面談に立会う他、状態の確認を 行い医療関係者も交えて今後の方向性を相談しました。看と り体制は整えているが、事例は未だありません。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「穏やかに安らぎのある暮らし」というケア理念のもと、安 心して最期の時を迎えられるよう、希望があれば看取りケア を行う方針である。24時間体制で協力医療機関と連携を取 り、医師や看護師、介護職、家族等が協力して支援に組み こまれるよう、マニュアル等の準備をしている。</p>	<p>看取りケアを行うにあたって、利用者や家族が納得した最期 を迎えられるよう、家族や医療関係者、事業所の職員が対応 方針を共有する事が望まれる。また、職員は看取りケアの勉 強会や緊急時対応の研修等、意欲を持って取り組むことを期 待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急車の要請、応急手当など対応できる能力を個人個人身につけておくように努力しています。 訓練は出来ていても正直、いざとなった時に冷静に出来るように、事例学習などを行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルに沿った正確な判断・行動が出来る能力を個人個人身に付けています。 年に2回の消防訓練を受けています。昨年は水害の為、自主避難を経験しました。 (外部評価) 夜間と昼間の火災想定で避難訓練を行っている。実際に利用者も参加し集会所まで避難する等実際に即して訓練している。土砂災害警戒指定区域内であり、台風の時には自主避難した経験もあり、課題の把握もできている。土砂災害に対して意識も高く、関係機関との連携も行っている。	職員の災害時における役割分担、地域や関係機関への緊急時連絡網の整備等、自主避難した昨年の経験を活かして具体的にマニュアルを見直し、自主訓練の実施等を望みたい。施設内の環境整備、備蓄の準備等についても検討を重ね、非常時でも利用者の生活を守るための取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人1人責任を持ち、笑顔をもって対応できています。 言葉遣いに注意しています。命令口調の声掛けにならないようにしています。 例えば、トイレの扉を開けっ放しで介助しないようにしています。 (外部評価) ケア理念である「自分でできる喜び、達成感のある暮らし」「自分らしく誇りを保つ暮らし」を実践するため代表者や管理者、職員全員で取り組んでいる。利用者に対する言葉遣いや声の大きさ等配慮しており、職員間でも注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常に声掛けし、希望や要望を聞き出来る限り対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホーム内行事の参加や毎日の作業、レクなどを通し1人1人のペースを把握して提供しています。 利用者さんの得意な事を把握し楽しい生活を送って頂けるように努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時の着替えや外出時の服装は自らで選んで頂いています。選べない利用者さんは季節感に合わせた物を選ぶように支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 当施設独特の仕方ではあるが、食事の準備、片付けなど自宅での生活のように出来る事は自分でをモットーに支援しています。 夏場の調理(食中毒予防)や高齢者に合った味付けには注意しています。 (外部評価) できることは利用者が行えるよう、職員は見守りしながら支援を行っている。季節の野菜を中心に食べやすいメニューになっており、かかりつけ医から栄養バランスについてのアドバイスももらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 排泄ケア・水分摂取量・食事量チェックを必ず行い、スタッフ同士引継ぎが確実に出来ています。 水分の摂れない方はジュースやトロミを付け、食事の摂れない方は栄養飲料で不足分を補う工夫をしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝・就寝時・入れ歯の手入れを個人でして頂きスタッフでの磨き直し、又託職歯科医との連携も出来ています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを知り、声かけ誘導、個人の能力を最大限に生かし最小限の介助、支援をしています。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の状態に応じてトイレ誘導を行ったり、夜間はポータブルトイレを使用する等、できるだけおむつに頼らない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックの記録やスタッフからの報告を聞き対応しています。食事、間食、運動など注意観察しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間を決めスタッフ監視の元、入浴を実施しています。安全第一で行っています。無理強いせず、人や時間を変えて促しています。寒い時期は足湯を利用しています。	
			(外部評価) 夏場は週3回、冬場は週2回と入浴回数や時間を決めていますが、利用者の状態や要望に合わせて支援している。拒否の強い利用者にも声かけを工夫する等して気持ちよく入浴できるよう援助している。浴室にはエアコンの設備がないため、脱衣室や浴室の温度管理に気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人個人の精神状態・健康状態を把握しておく事と睡眠(不眠)については、医師の指示の元支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 確実な服薬と異変に早く気付くよう日々観察を行っています。 本人確認を間違えないようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーション、作業の段取り、外出行事計画を立て、気分転換をして頂き楽しみを見つけられるよう支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族や地域の人達の協力の元、月2回外出は設けています。 季節感を肌で感じられる場所を外出先に選んでいます。	
			(外部評価) 年間の行事計画を作成し、毎月ドライブ等で外出している。 敷地内は自由に行き来することができ、屋外での活動も日常的に行っている。季節には利用者と山菜採りに行ったり、畑の手入れをしたり入居前と変わらない元気な暮らしを送ることができるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 当施設では、個人個人でお小遣い程度のお金を家族確認の元持っておられる方はおられますが、基本的には事務所預かり、必要時使って貰っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については家族の声の聞くと興奮・不穏がおきる方もあり応じられない場合がありますが、手紙のやり取りは出来るよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居心地よく生活できるよう、スタッフ・利用者さん共に季節感は特に重視し工夫できています。</p> <p>(外部評価) 自然環境に恵まれ、四季を感じながら生活する事ができている。リビングから見える伊予灘の景色は利用者さんがふるさつを感じ安心して過ごせる場所となっている。運営推進会議でも夏場の暑さや冬場の寒さ対策について話し合わせ、対策を講じている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 個人個人の居室で過ごせる空間が出来ています。利用者さんが集う場所でのトラブルがないように座席を決めています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時には、今まで生活されていた時に使用していた物、タンス、机、布団、写真など持参して頂き安心感のもてる工夫をしています。室内の臭いなどにも配慮し、換気も心がけています。</p> <p>(外部評価) 居室管理の担当者を決めており、利用者は各担当者と相談しながら、室内の整理整頓や季節の衣類交換等行っている。掃除機を使用することができない利用者も、職員と一緒にほうきと塵取りで自ら床を掃く等できることをしてもらっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) スタッフと共に安全に出来る事はして頂くをモットーに支援しています。バリアフリーで安全に移動出来るようにしています。</p>	